

町が進める SDGs について 生徒と意見交換



— 宮津学舎生徒と山添町長との対話授業 —

10月28日、宮津天橋高等学校宮津学舎において、今年度で9回目となる町長対話授業を開催しました。

前半は、山添町長から「与謝野町×SDGs」と題して講話を行い、SDGsの概要やSDGsに関連する町の取り組みとして、気候変動に対する取り組みを紹介。講話の最後には、「SDGsの17の開発目標や169のターゲットがどのように設定されているのか調査していただきたい」と語りかけました。

後半の質疑応答では、「地域の人と交流する機会の創出」「廃校の活用方法」など、まちづくりに関する質問が多くあり、町長が一つ一つ丁寧に回答。



後半の質疑応答の様子

中には、「自分たちで地域を活性化させたい」という前向きな意見もありました。最後に山添町長から「皆さんがどのような人生を歩まれたとしても応援していきたい」と生徒たちにメッセージを贈りました。

※ SDGs (Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標)

● 与謝野町戦没者追悼式 平和への祈りを新たに



追悼の辞を述べる遺族代表の糸井さん

11 先の大戦で亡くなられたすべての戦没者の方に追悼の誠をささげ、平和への誓いを新たに「与謝野町戦没者追悼式」を野田川わーくばるで行いました。

追悼式には、遺族会の会員や関係者65人が出席。山添町長や来賓に続いて、遺族を代表して糸井満雄さんが「過去の経験を風化させることなく、後世に伝え、二度と戦争を起ささないような平和国家を築き上げることが、戦火に散った尊い命に報いる今を生きる私たちの使命」と追悼の辞を述べられました。その後、出席者は献花とともに、平和への誓いを新たにしました。

● 人権問題を考えるつどい 平和の大切さと戦争の恐ろしさ



自身の体験談を話す講師の久郷さん

11 人権について理解を深める「人権問題を考えるつどい（講演会）」を知遊館において開催しました。

平和の語り部・ノンフィクション作家・心理カウンセラーの久郷ボンナレットさんが、「この世で最も価値のあるものは『平和・命・人権』です」をテーマに講演。久郷さんはカンボジアで生まれ、1975年のポル・ポト政権によって両親や兄弟を失ったこと、自身も過酷な強制労働を強いられ生きるために「1000万個の地雷原」をくぐりぬけ命がけで祖国を後に日本に避難した体験など、戦争の恐ろしさを参加者に語りかけました。

生活者支援

■ 水道料金の負担軽減 **3,363**万円

水道基本料金を月額一律500円減免から全額減免する（公共施設を除く）。

※ 令和5年1～3月請求分から。申請不要

■ 学校給食費の負担軽減 **142**万円

学校給食費の保護者負担を軽減するため、食材の価高騰分を交付金で補う。

事業者支援

■ 電気・燃料費支援 **6,041**万円

事業を継続している中・小規模企業業者が支払った電気料と燃料費の一部を支援。※【対象期間】4～12月分



■ 農業者への営業継続支援 **600**万円

与謝野町産地経営構造改革方針に位置づけられた農家に対し、生産経費高騰に対する支援。

物 価高騰などによる住民生活と事業継続を支援する補正予算が、11月8日に可決しました。今回の補正予算は、6月定例会で承認された「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（原油価格・物価高騰対応分）」の支援内容を拡充。水道料金の

負担軽減や事業者の電気料・燃料費の支援の拡大、学校給食費の負担軽減や農業者支援を引き続き行います。



物価高騰等による 住民生活と事業継続支援を拡充

— 令和4年11月補正予算 —

よさのみらいトークで 地域情報を発信！

— 金屋区が実証実験をスタート —

与謝野町版ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)「よさのみらいトーク」を活用して、このほど金屋区（森垣光雄区長）が地域情報の発信を開始しました。

よさのみらいトークは、時間や場所にとらわれず、与謝野町に住む人や出身者、応援してくれる人など、多様な住民の皆さんが、地域づくりやまちづくりについて、合意形成を図りながらオープンに議論・対話できる環境づくりを目指して、昨年12月に開設したデジタルプラットフォームです。さまざまな使い方ができることから、昨年度から、地域団体等と活用方法を検討するワークショップを実施してきており、協働のまちづくりに積極的に取り組む金屋区では早くから本プラットフォームに着目。このたび、地域団体として初めて利用を開始され、金屋区の紹介や区からのお知らせ、年間行事予定、公民館活動、



日々の出来事も発信している金屋区のみらいトーク

各部の活動などを発信されています。

森垣区長は「まずはスマートフォン等を使って、区民の皆さんに気軽に区ホームページを見てもらえるような取り組みを進め、浸透してきたら区民同士や出身者、他地域の方と交流もできるようにしていきたい」と、当面の活動方針と今後の抱負を話してくれました。与謝野町では、同プラットフォームの活用を進め、住民の皆さんと行政との対話によるまちづくりを進めるとともに、地域が主体となった地域づくり活動を支援していきます。